

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立南毛利中学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】	校長名 奥脇 裕子
---------------	--	-----------

学校教育目標	学校経営の方針
<p>「より強く、より高く、より美しく」</p> <p>高い知性と豊かな情操を持ち、心身を鍛え、勤労を尊び、自主的に行動できる、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する。</p>	<p>【めざす学校像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生徒一人一人が主体性を持ち、生徒活動に積極的に参加する活気のある学校を作る。 ●生徒が持つ資質能力を高め、人間尊重と生命に対する畏敬の念を育む学校を作る。 ●家庭・地域との連携に努め、協働の精神を大切にする学校を作る。 <p>【めざす教師像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生徒に寄り添い、生徒の心の痛みがわかる教師をめざす。 ●絶えず授業改善・研鑽に取り組む教師をめざす。 ●常に人権感覚を磨き、適切な思考・判断・行動ができる教師をめざす。 ●家庭や地域との連携、協働を積極的に推進できる教師を目指す。

今年度の重点目標
(1)生徒一人一人の資質・能力を高める。 (2)家庭や地域との連携を強化し、信頼される学校をつくる。 (3)心身ともに健康で、安心・安全な生活を送ることができる能力を高める。 (4)生徒と教師との信頼関係を築き、積極的な生徒指導を行う。 (5)支援を必要とする生徒の課題を明確にして、全員で対応する。 (6)人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を育む。

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
(1)生徒一人一人の資質・能力を高める。	1・3	①アクティブラーニングを意識した授業実践・授業参観を通し、自己研鑽につなげる。 ②研究推進校等の実践を学び、情報共有化を図り、教育活動に活かす。 ③社会に開かれた教育課程を作成する。	→2学期に1人1回という設定で授業公開を実施した。一部実施できない教員もいたが、70%の実施は達成できた。 →9月中旬に、県教委の指導主事を招いて「新学習指導要領の実践」について研修会を実施した。わかりやすく有意義な内容であった。 →ホームページ・保護者会・学校運営協議会等で公開した。	→学期に1回ずつ(年3回)、放課後一部のクラスを残して授業公開を実施。全員で参観の後、研修会を行う。 →日時は未定だが、次年度も実施予定。 →次年度も継続。

<p>(2)家庭や地域との連携を強化し、信頼される学校をつくる。</p>	<p>3</p>	<p>①「コミュニティースクール」を活性化させる。</p> <p>②生徒活動、部活動を通し、小学校や地域と連携する。</p> <p>③美化活動・防災訓練等、生徒の積極的な参加を促す。</p> <p>④学校HPや学校だよりの充実を図る。</p>	<p>→校長同士の連携を密にし、運営組織や活動内容の見直しを行った。昨年に比べ、運営の効率化・スリム化が図れた。</p> <p>→吹奏楽部と合唱部のみだが、小学校との交流・連携を復活させることができた。</p> <p>→防災訓練と年末美化清掃の日は部活動を中止し、学校としての参加体制を取った。事前に自治会別集会を開き、参加を促した。</p> <p>→全ての情報を発信するという訳ではなく、必要な情報を精査し、デジタルと紙の併用での発信に心がけた。</p>	<p>→左記の成果を継続。さらに内容の充実を図りたい。</p> <p>→コロナ前の参加レベル(部活動単位での地域イベント・公民館行事等への参加)を模索していきたい。</p> <p>→次年度も本年度並みの体制を取りたい。コロナ前は自治会長さんを集会に呼んでいたが、そこまでできるかは未定。</p> <p>→保護者や地域の理解を仰ぎながら、発信の内容や回数等を工夫して行きたい。</p>
<p>(3)心身ともに健康で、安心・安全な生活を送ることができる能力を高める。</p>	<p>1</p>	<p>①規則正しい生活を送らせるため、食事・休養・運動の重要性を理解させ、生活改善能力を育成する。</p> <p>②アクションカードを活用した疾病者対応の研修会を実施する。</p> <p>③ケガの予防と対策について、意識向上を図る取り組みを行う。</p>	<p>→毎月の保健だよりで生徒や保護者への啓蒙活動を行った。また「心の健康エゴグラム」という内容で、全校一斉に学校保健委員会を実施した。</p> <p>→研修会は実施できなかったが、教師側も避難訓練の回数を重ねるごとに、だいぶ定着してきた。1月の地震の際にもスムーズに動くことができた。</p> <p>→一昨年来、けがの件数は減ってきている。</p>	<p>→次年度も継続の予定。</p> <p>→次年度は実施の予定。</p> <p>→引き続き指導する教師は、感染やケガのリスクを想定し取り組んでいく。また生徒(保健委員)からの発信や保健だよりでの注意喚起を継続する。</p>
<p>(4)生徒と教師との信頼関係を築き、積極的な生徒指導を行う。</p>	<p>2・3</p>	<p>①携帯、スマホの使い方について家庭とともに考える。</p> <p>②授業規律の確立と居場所・人間関係づくりを基盤とした「わかる授業・魅力ある授業」を実践する。</p> <p>③積極的に生徒と関わり、生徒理解を深めるとともに信頼関係を築く。</p>	<p>→全校対象の「情報モラル教室」ならびに1年生対象の「眠育」を実施した。また保護者会の折に「家庭用啓発」プリントを配布した。生徒アンケートにも設問を載せ、結果の分析を行った。</p> <p>→生徒の取組も定着し授業規律は整えられている。公開授業・研究授業は十分できなかったが、職員会議や学年会で研修資料の読み合わせを行い、授業力の向上に努めた。</p> <p>→月1回実施しているアンケート(心のつぶやき)では、生徒が本音をよく書いてくれたため、その後の教育相談やチャンス相談の充実につながった。また、昼休みなどで自発的にフロアの巡回を行う教師が増えた。</p>	<p>→生徒アンケートの結果を見ると一定の成果を上げているように思う。左記の取り組みは次年度も継続。</p> <p>→次年度は学期に1回ずつ(年3回)授業公開を実施。全員で参観の後、研修会を行う。</p> <p>→次年度は「教育相談優先日」を設け、相談活動のさらなる充実を図る予定。また、昼休みを中心に行っている日常的な巡回活動も継続する。</p>

<p>(5)支援を必要とする生徒の課題を明確にして、全員で対応する。</p>	<p>1・3</p>	<p>①報告、連絡、相談を徹底し情報の共有を図り、スムーズな教育相談体制を確立する。</p> <p>②支援担当者会議を活用し、情報を共有する。</p> <p>③SC、元気アップアシスタントによる教育活動の充実を図る。</p>	<p>→回覧板を活用し、日常的に情報の共有化を行った。特にという内容は職員会議でも徹底を図った。</p> <p>→時間割の中に支援の定例会を設定し、リアルタイムで課題に取り組んだ。ケース会議も放課後に適宜設定した。</p> <p>→毎週金曜日を活用の日と定め、情報交換や相談活動に取り組んだ。</p>	<p>→次年度も継続。</p> <p>→次年度も継続。</p> <p>→次年度も継続。</p>
<p>(6)人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を育む。</p>	<p>2</p>	<p>①道徳において担任以外の複数教師による授業を実施する。</p> <p>②生徒自身が自分の問題として捉え、向き合える「考える道徳」「議論する道徳」をめざす。</p> <p>③人権作文、人権メッセージなどを継続して行い、自他を大切に作る心、決していじめを許さないという心を育み、人権意識を高める。</p>	<p>→ローテーション道徳を実施した。複数の教師が関わることにより、個々の内面の深化や変容が見られた。</p> <p>→クロームブックの有効活用・ワークシートの工夫に力を入れた(班活動も徐々に復活させている)。</p> <p>→人権放送を年5回実施した。人権週間内に「人権道徳」を設定した。また生徒会主催の「いじめゼロ」の取組も、道徳の時間を活用し、年3回行った。生徒(福祉委員)の朗読も効果的だった。</p>	<p>→次年度も継続。</p> <p>→次年度も継続。評価の仕方も引き続き研究する。</p> <p>→次年度も継続。生徒(福祉委員)による朗読も継続する。</p>

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

- ①コミュニテースクール(学校運営協議会)自体について次の指摘があった。
- ・地域に設置されている事への保護者の認知度が低いように感じたので、積極的な情報発信など進めて欲しい。
- ②「次年度以降、学校は協議会や地域に何を望んでいるのか」という質問に対し、「学校としては、コロナ前に企画したさまざまな活動を具現化していきたい」と返答し了解をいただいた。具体的な取り組みは次の通りである。
- ・評議員の積極的な学校訪問や授業参観、学校行事への参加。
 - ・授業のお手伝いや職業講話に参加して下さる地域人材の再発掘。
 - ・自治会行事や公民館行事(イベント・祭り・清掃活動・防災訓練)への生徒の積極的な参加。
 - ・職場訪問を受け入れて下さる事業所の発掘。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

コロナ禍の中、本年度も教育活動全般に数々の制約が設けられたが、感染対策を施した上で「どうすれば実施可能なのか」を前向きに考えた1年であった。その中で、教育課程・学校行事・日々の業務等の「見直しや精選」を行う良い機会にもなった。

次年度への改善点は次の通りである。

- ①学校教育のグランドデザインに取り入れたSDGS(またはESD)をさらに具現化し、目に見える成果をあげたい。
- ②生徒・教師・地域にもわかりやすい文言に変更した学校教育目標を、積極的に情報発信し、教師・生徒・地域に浸透させていきたい。
- ③学校運営協議会(コミュニティースクール)との協働体制を強化していきたい。
- ④その他として
 - ・校務分担表を見直し、教職員の校務分担の「負担感の軽減化」「均衡化」を図る。
 - ・教職員の働き方改革の視点から「部活動の朝練習」以外の教育活動も見直しを図りたい。
 - ・教職員一人一人に寄り添い、相談活動に努めたい。